

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	総合国語Ⅱ B (E、C)	
科目基礎情報							
科目番号	0171		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般科目		対象学年		3		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	検定教科書 『高等学校改訂版現代文B』 (第一学習社) 参考書 『新版四訂新訂総合国語便覧』 (第一学習社), 『新しい常用漢字』 (数研出版), 『改訂版 漢字とことば 国語学習課題』 (尚文出版)						
担当教員	荻田 みどり						
到達目標							
1 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 2 専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 3 高度な文章を読み解くことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		類義語・対義語を思考や表現に十分に活用できる。		類義語・対義語を思考や表現に活用できると認められる。		類義語・対義語を思考や表現に活用できない。	
評価項目2		専門の分野に関する用語を思考や表現に十分に活用できる。		専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できると認められる。		専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できない。	
評価項目3		高度な文章を読み解くことが十分にできる。		高度な文章を読み解くことができる。と認められる。		高度な文章を読み解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (E)							
教育方法等							
概要		高度な評論・論文を精読する。高校3年生レベルの検定教科書の作品を中心に採りあげる。常用漢字、類義語・対義語に関わる小テストやレポート課題によって、語彙を増やし表現の幅を広げる。					
授業の進め方・方法		【授業方法】 ・授業は主に講義形式で進める。 ・常用漢字、類義語・対義語に関わる小テストを行う。 ・適宜グループワーク等、能動的な活動を取り入れる。 ・必要に応じてレポート課題の提出を課す。 【学習方法】 ・常に主体的に考え、目的意識をもって積極的に授業に臨むこと。 ・分からないことがあれば質問すること。					
注意点		【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。時間は50分とする。 2回の試験の平均(60%)と、提出課題・小テスト・音読や質疑応答等(40%)から、総合的に評価する。 到達目標への到達度を評価基準とする。 日本漢字能力検定・日本語検定等も推奨し、級に応じて加点対象とする(上限10%)。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階(B-301) 内線電話 8904 e-mail: m.ogitaアットマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明、評論 中村雄二郎「目に見える制度と見えない制度」		1, 3		
		2週	評論 中村雄二郎「目に見える制度と見えない制度」		1, 3		
		3週	評論 中村雄二郎「目に見える制度と見えない制度」		1, 3		
		4週	評論 中村雄二郎「目に見える制度と見えない制度」		1, 3		
		5週	論文を読んでもみる		1, 3		
		6週	論文を読んでもみる		1, 3		
		7週	論文を読んでもみる		1, 3		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	中間試験返却・到達度確認、専門の分野に関する用語を思考や表現に活用したレポートの作成		1, 2		
		10週	専門の分野に関する用語を思考や表現に活用したレポートの作成		1, 2		
		11週	専門の分野に関する用語を思考や表現に活用したレポートの作成		1, 2		
		12週	専門の分野に関する用語を思考や表現に活用したレポートの作成		1, 2		
		13週	評論 大澤真幸「リスク社会とは何か」		1, 3		
		14週	評論 大澤真幸「リスク社会とは何か」		1, 3		
		15週	評論 大澤真幸「リスク社会とは何か」		1, 3		
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	後9,後10,後11,後12	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	0	0	30	0	100
基礎的能力	60	10	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0